

# 青年招へい事業

中国

[交流レポート]

# 青年邀请计划

中国

[交流报告书]

JICA LIBRARY



J 1125111 (3)

1995

国際協力事業団



青招

JR

95-019

---

青年邀请计划 —中国— [交流报告书] (1995)

1996年3月31日

发行 国际协力事业团研修事业部 青年招聘课

〒151 东京都澁谷区代々木2丁目1-1

新宿MAYNDS TOWER

电话 (03) 5352-5402~3

编辑 财团法人 日本国际协力中心 国际交流部

〒163-04 东京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井大楼内

电话 (03) 5322-2561

---

未经许可不许转载。



1125111 (3)



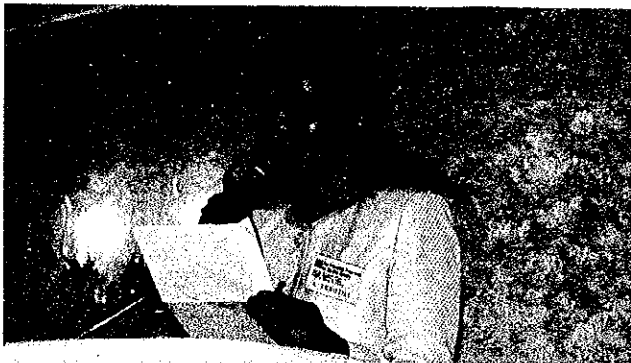
# 信頼と友情への第一歩

## 信頼与友谊的第一步

平成7年度新中青年的友情計画／新中国実務者招へい計画  
 1995年度新中目青年友谊计划／新中国基层工作人员邀请计划



国際協力事業団より歓迎のあいさつ  
 国際協力事業団代表致歓迎詞



外務省より歓迎のあいさつ  
 日本外務省代表致歓迎詞



中国青年代表よりあいさつ  
 中国青年代表致詞



期待に胸をふくらませて  
 熱烈期待着



中国青年代表よりあいさつ  
 中国青年代表致詞

共通プログラム  
共同活動



青年と日本人参加者との対面（体験的日本語学習）  
与日本朋友见面（实地日语学习）



これは中国のおみやげです。どうぞ。（日本語学習にて）  
这是中国的礼品，请收下。（日语学习）



おいしいですか。（日本語学習にて）  
好吃不好吃？（日语学习）



講義に聞き入る青年  
认真听课



工場見学  
参观工厂

合宿セミナー  
合宿研讨会



いっしょに餃子も作りました。  
传授包中国饺子秘訣。



気持ち良く散策。  
舒心散步。



相模湖畔にて  
在相模湖湖滨

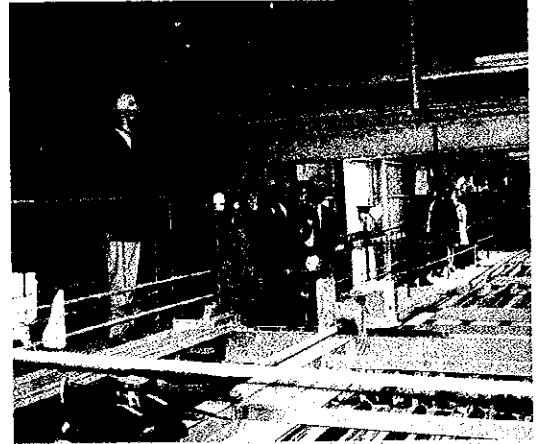


太陽の下で記念撮影  
在阳光下合影留念

分野別プログラム  
分団活動



首里城公園の守礼門にて  
在首里城公園守礼門



建材工場の見学  
参观建筑材料工厂



幼稚園訪問  
访问幼儿园



講義を終えて記念品贈呈  
听完课，赠送纪念品



あちらこちらで写真撮影  
给我们也来一张!





はい、笑って下さい。  
笑一笑!



見学先で記念撮影  
在參觀單位合影留念



高等技術学校にて  
在高等技術学校



わあ、すごい! (地元青年とのボウリング交流)  
噢，真棒! (与当地青年进行的保龄球交流)

ホームステイ  
見学旅行  
民宿活動  
参观旅行



上手に作れました。  
你看，多漂亮啊！



筆談を交えてコミュニケーション  
用笔谈进行交流



乾杯/  
干杯！



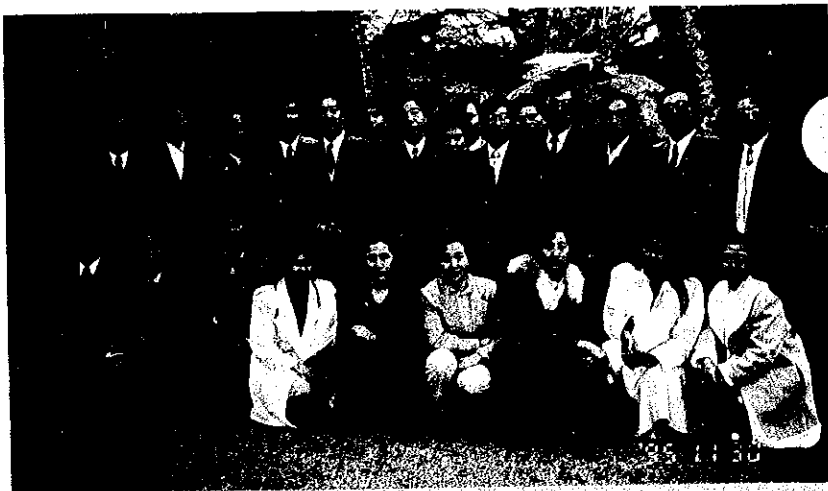
ホームステイ先の家族と  
这是我的日本家属



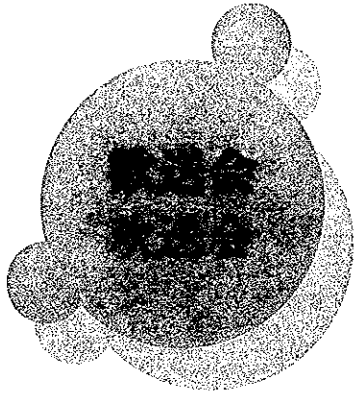
地元の小学校にて  
在当地小学



小学生に戻った気分  
好象回到童年似的



周恩来总理纪念碑の前で記念撮影（京都・嵐山）  
在周恩来纪念碑前合影留念（京都・嵐山）



国際協力事業団から参加証の授与  
国際協力事業団代表頒发参加証



盛り上がっているところで一枚  
给我们来一张!



みんなで合唱  
朋友们合唱



最後にみんなで  
最后，大家一起唱!



素晴らしい歌声  
披露歌唱才能

# 青年招へい事業

## 青年邀请计划

日本語編・日语篇	3
中国語編・中文篇	49



# 青年招へい事業





## はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、アセアンをはじめ、アジア、太平洋、アフリカ諸国などから、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に1カ月間招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

昭和59年度より平成6年度までの11年間で、日本を訪問したアジア・太平洋・アフリカ諸国の青年は11,921名に達しました。招へい国は当初アセアン6カ国でしたが、現在では太平洋諸国、ミャンマー、中国、韓国、南西アジア諸国、モンゴル、アフリカ諸国、およびカンボディア、ラオス、ヴィエトナムのインドシナ3国が加わり大きな広がりをもってまいりました。

そして、本事業開始以来12年目を迎えた平成7年度も、1,533名の青年の受け入れを無事終了することができました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の1カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただきます。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねて厚くお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義な交流プログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成8年3月

国際協力事業団  
研修事業部  
部長 庵原 宏義



## 目 次

1. 新日中青年の友情計画	
(1)事業の概要	11
(2)招へい実績	12
2. 招へい青年の印象	14
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	19
4. ホストファミリーの思い出	22
1. 新中国実務者招へい計画	
(1)事業の概要	27
(2)招へい実績	28
2. 招へい青年の印象	30
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	35
4. ホストファミリーの思い出	38
実績資料	
1. 実績一覧	
(1)「新日中青年の友情計画」実績一覧	42
(2)「新中国実務者招へい計画」実績一覧	43
2. 平成7年度青年招へい実績一覧	44
3. 中国窓口機関（現地プログラム実施機関）	46
4. 青年招へい事業実施協力団体等連絡先	46
中国語編	49
〈招へい青年名簿〉	91



# 新日中青年の友情計画



# 1. 新日中青年の友情計画

## (1) 事業の概要

### 1) 事業の目的

「新日中青年の友情計画」は、日本と中国の青年の交流を通じ、21世紀に向けて、より良き未来と平和と繁栄を分かち合うために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### 2) 実施方法

#### (a) 招へい人数

平成7年度は、100名を同時期に受け入れる。

#### (b) 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年

##### (i) 青年指導者

中華全国青年連合会職員・青少年対策関係者等(青少年犯罪防止等)で各地方の青年リーダー

##### (ii) 勤労青年

第三次産業従事者(流通、サービス等)を含む企業管理者・工場長等の国営企業・郷鎮企業の  
管理部門関係者

##### (iii) 公務員

中央政府各部門の公務員

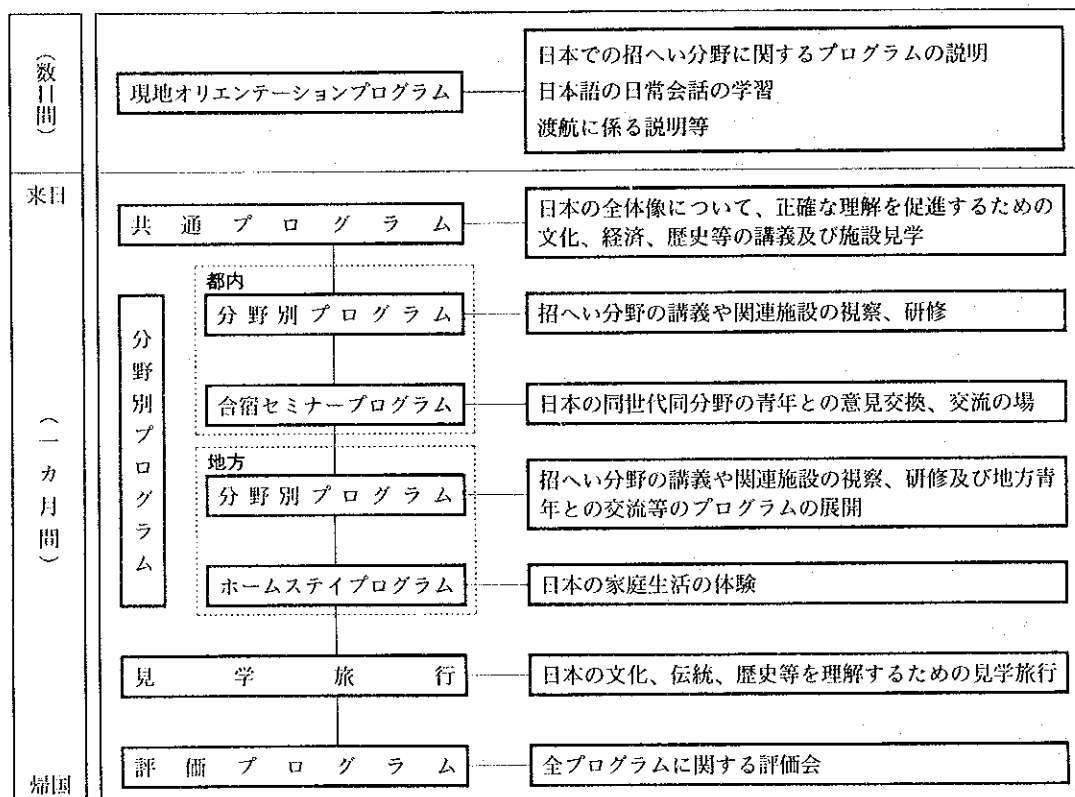
##### (iv) 教員

小中学校等の教員・学校運営関係者等の教育関係者

#### (c) 招へい期間および時期

11月8日から12月7日までの1カ月間

### 3) プログラム概要



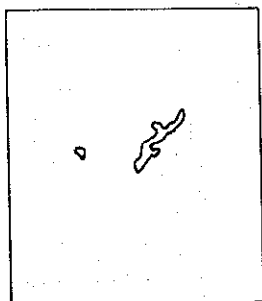
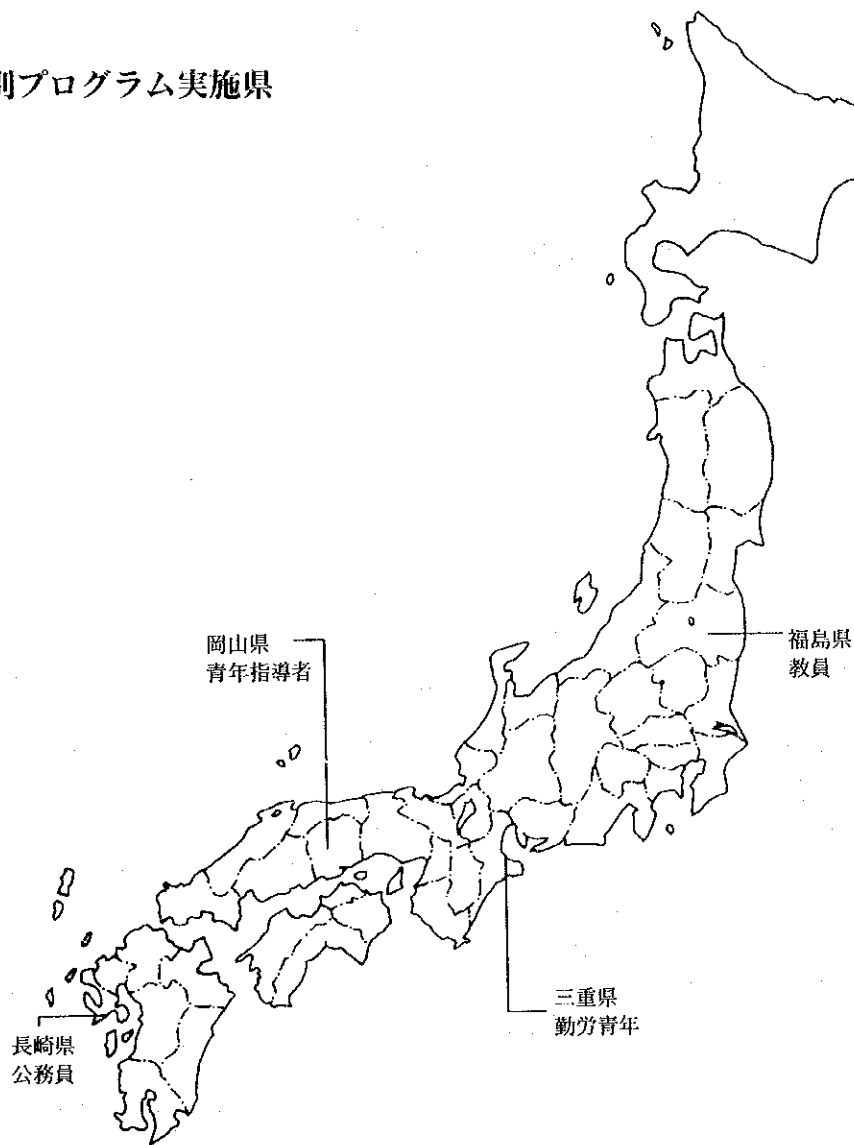
### (2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施県
青年指導者	25	日本青年団協議会	岡山
勤労青年	25	日本経済青年協議会	三重
公務員	23	国際交流サービス協会	長崎
教員	25	日本ユネスコ協会連盟	福島

\* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。



### 分野別プログラム実施県



## 2. 招へい青年の印象

### ホームステイ

郭 崎  
(青年指導者グループ)



1995年晩秋、私は幸いにも中華全国青年連合会に派遣され、中国青年視察団の一員として、日本政府、JICAが招へい・実施する青年招へい事業に参加しました。期間中、実施団体及びコーディネーターの行き届いた手配と尽力によって、日本の政治、経済、文化等について多くのことを知ることができました。なかでも日本経済の発展と日本人の厚い友情には感銘を受けました。ホームステイはその縮図ともいえるよい経験でした。

私のホームステイ先は岡崎家です。岡崎嘉平太先生は日本の発展と日中友好事業に傑出した貢献をされているので、彼の一族は当地でも名望があります。私が滞在したお宅は岡崎嘉平太先生の弟薫太郎氏の一族で、大家族です。70代の老夫妻、一組の中年夫婦、3人の学校に行っている子供たちがいます。この家庭のとても善良で、真心のこもった温かさは、私に自分の家にいるような温も

りを感じさせてくれました。

最も印象深かったのは、77歳の老主人、薫氏です。数日のふれあいでも不思議に感じたのは、彼が50、60歳の人のように動作は機敏、頭脳は明晰で、昼間は休まず何かやっていることです。私たちが最も多く話題にしたことは嘉平太先生に関することです。彼は大切にしまっていた嘉平太先生の手紙を一つ一つ手にとって私に見せてくれて、その手紙の背景にある事柄を話してくれました。日本の中国侵略戦争に話が及ぶと、彼は眼に遺憾と苦悩を滲ませ、嘉平太先生が上海で仕事をしていた頃のことや日中友好に尽力していた時のことに話が及ぶと、眼は輝き誇りに満ち、嘉平太先生への崇拝の念を見て取ることができました。彼は中国に行ったことがなく、機会があれば中国へ行って、嘉平太先生が手紙に書いてきた所へ行ってみたいと願っています。老人との交流で、私は日本人の歴史を正面から見据え、中国を理解したいという渴望を感じました。彼の忙しくしている姿を見て、私は日本人の勤勉さに深く感動し、日本の輝ける経済発展と高度な物質生活の背後には、仕事に励み一生懸命努力する日本人の姿があることを知りました。彼を通して、より深く日本を理解しました。

忘れがたいホームステイ、それは一つの家を通して私に日本人の友情を感じさせてくれました。ホームステイで起こった一つ一つの感動的な出来事は、私にこれこそが日本の縮図、日本人の心だと教えてくれました。私は岡崎一家と再会し、彼らを北京でホームステイに迎え、共に杯をあげて、

日中友好のため「乾杯」を歌いたいと願っています。

## 日本訪問の感想

黄 占華  
(勤労青年グループ)



11月は日本の一年のなかで最も素晴らしい季節です。私たち中国青年代表団は友情を深めたいとの願いを持って、美しい日本へ参りました。1カ月、いろいろな視察地を訪問をしました。青年グループとして、企業視察、学校見学、東京都内観光、名勝旧跡参観、それに、内容豊富な合宿セミナーとホームステイも行いました。全体的に見ると、主催者側の熱意溢れる歓迎と緻密な手配によって、円満な成果を得ました。第一には自分自身で日本の社会と経済について、理解することができたことです。第二には広い範囲で日本青年及び各業界の人と接触し、理解を深め、深い友情を結ぶことができたことです。第三には両国間の比較のなかで、日中両国の協力を強めること、そして、長期的、かつ安定的な善隣友好関係を打ち立てることの重要性と必要性を強く感じました。

この1カ月の交流活動のなかで、合宿セミナーは私に深い印象を残してくれました。私のグループは経済グループですので、団員は企業のリーダーである人が多くいました。現在の中国企業は昔と違って、国営企業だけではなく、民営企業、私営企業、合弁企業、独資企業などさまざまな経営形式があります。これは改革開放による、経済体制の変化だと思えます。日本青年、ホームステイ

の家庭もこのような変化について、深い興味を示していました。私たちも日本青年たちの自分の会社に対する考え方を聞きました。彼らの大半は、一生懸命働き、会社を自分の家のように思っています。このような考え方は日本の社会環境と関係があり、それに、企業の終身雇用制度とも関係があります。ある会社の職員は私たちに「日本は資本主義の国ですが、私たちの会社のなかで社会主義の管理体制の存在も感じています」と話してくれました。私たちは彼女の発言に興味を持ちました。このように、全力で自分の仕事に尽くす社員がもたらす会社の繁栄と日本経済の発展を見ることができました。現在の日本経済は低迷状態にあります。ボーナスの支給減、就職難、社会の高齢化による増税によって、この状態を抜け出すことはかなり難しいと思います。こんな時にこそ、戦後の高度成長時代の「大公無私」の企業精神を高めるべきです。企業の発展、日本経済の回復及び日本の未来のために皆の努力が必要とされています。現在中国は高度経済成長という時期をむかえています。21世紀には、アメリカや日本などの先進国を追い越す可能性があります。しかし、この道には多くの困難が待ちうけています。私たちは祖国の発展、日中友好関係の強化、世界平和の維持という偉大な任務を担っています。

今回の訪問を通じて、日中両国の青年と国民の友好関係は必ず新しい展開を見せてくれると信じています。ここで、私たちは今回の訪問に対するJICAをはじめ諸団体の方々への心こもった、ゆき届いたご手配に対し心より感謝いたします。

## 忘れ難いホームステイ

楊麗  
(公務員グループ)



“楊麗、歓迎、歓迎、歓迎你再来（楊麗、いらっしゃい、また来てね）”この横断幕に書かれた11の漢字を見た時、私はとても感激しました。異国での見知らぬ家庭での3日間のホームステイ・プログラムは、私がいちばん心配していたものだったのです。けれど、大きく書かれたこの文字が目に入った瞬間、温かいものがこみ上げてくるのを感じ、心細さと不安な気持ちはどこかに吹き飛ばしてしまいました。なんと心温まる言葉、なんと温かい気持ちなのでしょう。陶磁器業を営むこのホストファミリーの方々は、中国語も分からず、私がどんな人間なのかはまだ知らないのです。横断幕に書かれた言葉は実は別れの言葉なのですが、ホストファミリーにとって横断幕にこのような中国語を書くことは容易なことではなかったでしょう。私はこの11の漢字とホストファミリーとを交互に眺めながら、慣れない日本語で、たどたどしく「ありがとう、ありがとう」を繰り返していました。

この温かい雰囲気の中、この家族との隔たりが全くなかったような気がしました。一日の疲れや、自分が外国人であることなど忘れ、すぐに家庭に溶け込んで、いろいろ話し始めました。言葉は十分通じませんでしたが、皆でこたつを囲み、慣れない言葉で辞書を引き引き、身振り手振りや筆談で、互いの気持ちを通わせ、友情を伝え、友誼を深めました。親切なご主人は、私が寂しく

なってホームシックにかかっていたと心配して、北京への国際電話をかけてくれました。私が自分の家族と話ができたのを見ると、ご主人も喜んで拍手をしてくれました。そして自分もその電話を取って、私の家族にあいさつをしてくれました。言葉は十分通じなかったのですが、ご主人の笑顔からそのうれしい気持ちが十分に分かりました。やはり心が通じたのでしょう。私はホストファミリーの方々への感謝の気持ちとして、中国では一家団欒の象徴とも言える餃子を作りました。家族で食べながら、皆さん「おいしい、おいしい」と言ってくれました。これは単に中国風の餃子がおいしいと言っているのではなく、日中両国が一衣帯水であり日中両国人民の友情が永遠に続くことを言っているような気がしてなりませんでした。

別れる時のことはもっと忘れられません。家族全員が正装して、送ってくれたのです。荷物を持って家を出ようとした時、そのお宅の飼い犬も人の心が分かったかのように大きな木の下から遠く私たちを眺め、静かに別れを告げているかのようでした。初めて私を見た時には、あんなに吠えていたのに。お別れする時には、互いに離れ難く、名残惜しく、これまで出会えなかったことさえ残念に思えました。バスが動きだしても、見送りの方々はまだ私の手を握って、「お元気で、さようなら」と何度もおっしゃってくださいました。バスが走り出し、後ろを振り返ると、ホストファミリーの人たちはまだ手を振ったり、お辞儀をしたりして別れを惜しんでいます。「さようなら、友人の皆さん。さようなら、ホストファミリーの皆さん。ぜひ中国へもいらしてください。待っています」と私は心の中で呟いていました。

外国で過ごした日々は長いような、短いような気持ちでした。1カ月はあっという間に過ぎてしまいました。このあっという間の時間は、私に忘れ難い思い出を残してくれました。日本の美しい山河、絵のような風景。それにも増して日本の方々

の温かく美しい気持ち、日本人の勤勉で労働を尊ぶ精神には深く感動しました。

七色の虹が私たちのお互いの手をつなぎ合わせ、日中友好のかけ橋として両国青年の友情を繋ぎ、ホストファミリーの方々の温かい気持ちは慈雨のように私の心を潤してくれました。新日中青年の友情計画が互いの心を通わせることができるように、また日中友好が大河のように遠く永く流れていくように願っています。

## 日本を訪問しての感想

陳 延輝  
(教員グループ)



私はこのたび、JICAにより企画・運営されている「1995年度 青年招へい事業」の教員グループの一員として、1カ月の日本訪問という機会に恵まれました。

このたびの訪問及び視察を通じて、日本と日本の人々についての理解を深めることができ、また日中関係の発展の重要性を強く実感しました。日本経済の繁栄ぶりや、非常に発達した交通網や通信事業、徹底したサービス、社会秩序が整然としている様子などを実際に目のあたりにし、日本の人々の科学、文化、技術を尊重し、学習を惜しまず、勤勉に働き、礼節を重んじて、常に向上しようとしている姿勢を直接感じ取りました。

日本の人々は日中間の友情を大切にされており、私たち訪日団員にも非常に友好的でした。JICA及び日本ユネスコ協会連盟のスタッフの方々をはじめ、各地方での受入担当の方々、合宿で意見を交わし

た日本人の教員仲間、ホストファミリーの皆さん、見学した各学校での教員諸氏や生徒さんたち、さらには道端で出会っただけの人々まで、とても親切に、心温かく迎えてくれました。東京に着いたばかりの時、まだ東京の事情は全く分かりませんが、私は同じグループのメンバーと新宿に行ってみることにしました。その時、50歳代の男性が、私たちの言葉から私たちが中国人であることを知り、切符を買うのを手伝ってくれました。さらにその男性は、きっと私たちが下車駅をまちがえるのを心配されたのでしょうか、別れた後でまた人込みの中から私たちを探してくれ、わざわざ新宿まで送ってくださったのです。

ホームステイでお世話になった伊東先生のお宅では、よりよいコミュニケーションのためにと、須賀川市在住の中国の女性を私たちの通訳として呼んでくださっていました。

また、今年69歳になられる福島ユネスコ協会連盟事務局の松井和夫先生は、私たちの受入れとスケジュールの消化に、早朝から夜遅くまで、いとまなく東奔西走され、私たちとしては非常に恐縮してしまうほどでしたが、先生はいつも「僕はまだまだ若いから」と、ユーモアたっぷりに応えてくださいました。このような例はまだたくさんあるのです。日本の人々の私たちに対する深い思いやり、厚い友情は、一生忘れ得ません。偽りのない気持ちとして、日本でのこの1カ月間、私は異国の地にいるという感覚がほとんどなく、ホームシックにもなりません。それというのも、毎日さまざまな中身の濃いスケジュールが用意され、学ぶべきものが実にたくさんあったこと、そして、家族同様に接してくれた日本の友人たちの友情のおかげです。

私は、日本でのこの素晴らしい経験を必ずや、自分自身の仕事に生かしていきたいと思います。

今回の訪日で、相互交流を行うにあたって、言葉の通じないことが大きな障害になることを痛切

に感じました。大阪での見学旅行の際、中国語でガイドをしてくださった狩野美雪さんは、ご本人の話によると、38歳になってからラジオ講座で中国語の勉強を始め、10年間休みなく勉強を続けてこられたとのことでした。彼女は素晴らしいお手本です。帰国後私も一生懸命に日本語を勉強し、

日本で出会った友人たちとの友情を絶やすことなく、交流を続けていくつもりです。同時に、もっと多くの日本人々に中国の本当の姿を知ってほしいと望んでいます。私自身も、日中両国の永い友好のために力を尽くしたいと思います。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 日本のため、中国のために 役に立ちたい

小関 みどり  
(会社員)

私は今から3年前、高校3年生の時に東京都主催の洋上セミナーの団員として北京、天津、上海に行きました。海外旅行は初めての経験で、言葉もしゃべれず、中国の知識もないままに参加しました。故宮博物院をはじめ万里の長城や京劇などの中国の魅力に圧倒されました。当時のプログラムで、現地の人々と交流をもつ機会があり、私はそこで中国の人々の優しさに触れ、今は学生だから何もできないけれど、大人になったら何らかの形で中国にかかわりたいと思いました。

高校を卒業してすぐに旅行社で働くという幸運に恵まれ、高校時代の思いが現実へと一歩近づきました。入社してからは、中国のことを知るために、まず言葉や文化の違いなどを勉強しました。中国語教室に通う一方、異文化を肌で感じるために再度、桂林、広州等へ行きました。普段の生活では、中国の音楽を聴いたり映画や劇を観たりして、いつも中国に触れています。そんな時、今回の合宿セミナーを知り、ぜひ参加してみたいと思いました。

今回の合宿セミナーでは、日本のため、中国の

ために何か役に立ちたいという当時の思いを精いっぱい発揮することができました。私が担当したのは、2日目の夕食の交流会でした。私は仕事で添乗業務を行っているため、司会などは得意分野です。日中が交互にだし物を行い、盛り上がりました。日本からのだし物は参加した人の特技をそれぞれ生かし、けん玉、合気道、茶道、盆踊り等を観ていただきました。盆踊りでは炭坑節を選び、私がみんなの輪の真ん中で見本として踊りました。輪を組んで2、3回踊っていくにつれて、私たちの友情が厚くなるのを感じ、中国のメンバーからもほめられ、自分に少し自信ができました。このような素晴らしい合宿セミナーを経て、これから私は、旅行社の人間としていろいろ勉強し、私が添乗することによって一般のお客様にも本当の中国を見ていただき、そして私が出た知識や経験談をお話しして差し上げるつもりです。

そのためにも、このような友情と信頼を築けたことを私はとても誇りに思います。

“いつまでもこのような関係を続けていこう”という意味を、セミナー中みんなで作った「日中友好パスポート」に託してあります。参加された皆さん、友好とともに大切にしていましょネ！一日でも早く中国へ添乗に行けるように、頑張りますので、応援してください。

本当にありがとうございました。

## 筆談での交流

島 経人  
(公務員)

11月17日、秋空の下、中国勤労青年25人と日本青年25人が、互いの交流を通じてわが国と中国との相互理解と友好親善の促進を図ることを目的とした青年招へい事業の合宿セミナーに参加しました。

それぞれの思いを胸に始まったこの合宿セミナーでしたが、私たち日本青年を最初に襲った悩みが会話でした。ほとんどの日本青年が中国語を話せず、筆談とジェスチャーを交えながらの会話には皆、四苦八苦していました。そのぶん、自分の意思が相手に通じた時の感動は、言葉では表現できない、かつて経験したことのない喜びでした。

1日目の主要な日程の中にスポーツ交流がありました。そこで私たち日本青年を驚かせたのは、中国青年たちの疲れを知らない体力でした。またその夜に行われた交流パーティーでも、素晴らしい歌声や踊りの数々を披露してもらい、私たち日本青年はただただ歓喜の拍手を送るばかりでした。

2日目の合宿セミナーでの主要な日程には分科会がありました。この分科会では、昨日とは全く違う緊迫した空気の中、各自の意見をぶつけ合い、現在の日本と中国との問題について討論し、互いの国について理解を深めました。その日の夕食には、中国青年が一生懸命に作ってくれた餃子が出て、そのあまりのおいしさに日本青年の中には、20個も食べた人がいたほどです。その夜に行ったゲームでも皆、子供のようにはしゃぎ、さらに交流を深め、楽しい一時を過ごしました。

私たち日本青年は、この短い期間の中で中国青年から得たかけがえのない経験と思い出を大切に、これからの両国の友好がより一層深まるよう望んでいます。

## 夕陽の中の2時間

富田 明子  
(団体職員)

合宿初日の夕刻に同室になる人と初めて会うまでは、たいへん心配でした。というのも、私が割り当てられた部屋は、お互いの言葉ができない辛さんと私だけだったからです。

しかしながら、フロントで辛さんを見つけた時、私の心配は一瞬にして消えてしまいました。彼女のもつ温かな雰囲気は、私に大きな安堵感さえもたらしたのです。

そうはいつでも私たちはそれから夕食までの2時間を自分たちの部屋で2人きりで過ごさなければなりません。南の孤島に2人おいてきぼりをくったようでした。お互いに何とか時間を埋めようと薬をもつかむ気持ちでした。頼りになるのはJICAから支給された「交流手帳」と「ほんご21」だけ。合宿に参加させていただくことが決まってから覚えた、ほんの少しの中国語よりも、実地で、わずかではありますが、カタコトの中国語を覚えることができました。

今にして思えば、この夕陽に見守られた悪戦苦闘の2時間が、お互いの距離をぐっとせばめてくれたのでした。また、もし2人の間に語学ができる人がいたならば、これほどまで積極的に意思疎通を図ろうとしたか分かりません。

この2時間の中で興味深かったのは、辛さんが日本人と同じような気の使い方をするという事です。部屋に入るなり2人は脱兎のごとく手前のベッドに向かったのです。譲り合いの末、お客様である辛さんに窓際のベッドを使っていただくことができ、日本側の私はほっといたしました。これはお互い相手に見晴らしのよい窓際のベッドを使っていたきたいという気持ちの表れでした。この出来事はより辛さんを身近に感じ得る発端に



なったのです。

## 友好を実感した日中合宿セミナー

半沢 フク子  
(教員)

11月17日からの3日間、日中合宿セミナーが穴原温泉で行われました。到着した中国の皆さんを拍手でお迎えすると国籍が異なることが不思議に思えました。外見の差異がないのですから。それ故、続いて持たれた歓迎会では、言葉の通じないことがもどかしくてなりません。しかし、筆談と歌、踊りで心を通い合わせることができました。「北国の春」が、中国で広く歌われていることは有名ですが、それを中国語と日本語で聞いた時は、日本側の誰もが胸を打たれる思いでした。一生懸命、日本語で歌うその姿にです。私たちが披露した「さくらさくら」の簡易伴奏付き合唱には大きな拍手をくださり、次の「会津磐梯山」に至っては、ハッピーうちわを持って共に和気あいあいと踊るなど、一気に双方の距離が縮まりました。歌や踊りが、言葉以上に理解を深め合う手段であったことを、今更のように気付いたのでした。次の日の分科会や夜の懇親会が打ち解けてスムーズに行われたことは言うまでもありません。



分科会では、知的好奇心と意気込みに溢れた中国青年団から日本側に種々の質問があり、現場の様子をお伝えしたのですが、私たちも学ぶことが多々ありました。教育熱心なことは日中に共通ですが、わが子のしつけや学習について、日本以上に親が関心と時間を払って学校側と接することや、知徳体美労に重点を置いて教育に当たる点など学ぶものが多くありました。

合宿の数日後に持たれた送別会では、なつかしく再会し、話も弾んで至る所で談笑の輪ができました。人と人との交流が心のつながりを作り、それが国と国の友好を作り上げていくことを実感した次第です。中国の青年との交流の機会を与えてくださった関係当局の方々に心から感謝し、お礼申し上げます。

## 4. ホストファミリーの思い出

### 初めてのホストファミリー

松本 武  
(岡山県)

わが家(4人家族)にホームステイの依頼がありました。家族一同喜んで、家族の一員として受け入れることにいたしました。

ホストファミリーとなることに少しの不安(言葉、食事、習慣の違い等)と大きな期待があり、どんな人が来られるかたいへん楽しみにしていました。中国のことも家族で少しは勉強しました。わが家に来られたのは、四川省の人で、黄新初さんでした。いちばん心配していた言葉も、黄さんは日本語が少しできたので、十分に意思の疎通ができました。また、食事も好き嫌いなく食べられました。

わが家の近くの吉備国際大学に中国から留学されている大学生3人もお招きし、今秋嫁いだ娘夫婦、近所の人たちも呼び、黄さんを囲んで中国の話を聞いたり、日本の話をしたり、夜の更けていくのも忘れ、話に夢中になりました。

11月26日(日曜日)は、黄さんは山がたいへん好きだということで、県北の蒜山、鳥取県大山へ、帰りにはショッピングを楽しみました。

短い3日間のホームステイではありましたが、黄さんを始め、お招きした3人の大学生の皆さん

方の、非常にお年寄りを大切にし、相手を思いやる気持ち、いたわりの気持ち、ものを大切にする等々、私たち日本人が何か忘れかけていたようなことを思い起こさせていただきました。短いホームステイでしたが、中国の人々と相互理解を深め、深い信頼と温かな友情を築くことができました。これから黄さん家族と私の家族は親戚として末長い交流を約束し、近い将来の再会を楽しみにしています。

### 中国からの娘を迎えて

太田 久代  
(長崎県)

你好。今までアメリカを主に、ヨーロッパ、タイ等5カ国からの子供たちをホストし、いろいろな楽しい思い出、つながりを作ってきました。しかし、すぐ隣の中国からは初めてで、しかも国交も最近まで途絶えていたため、全くといってよいほど文化習慣等について知識がありませんでした。出会いの時は握手だろうか、ハグだろうか等迷い、ある人に電話をしてみたり、それなりに心配もしましたが、迎えてみますと、そんな心配もどこへやら、すぐ親しくなり、やはりアジアの人とは共通点が多く相互理解も他の国の人より早かったようです。

ただ英語も日本語も通じず、言葉はもっぱら筆談。いつもペンとメモ帳を持ち怪し気な漢文で会話……。多少まどろっこしさもありましたが、言

葉よりも文字のほうが美しく、また深い表現ができることもあり、お互いに時折感動の涙がにじんだり、ほんの3泊4日の家族だったと思えないほどの深い信頼関係ができました。いつかきっと私たちが中国に遊びに行くでしょうし、彼女も彼女のご主人や息子さんも来てくれることになるかもしれません。これで中国大陸にもポツンと1カ所親しい家族がいると考えただけでなんとなく楽しく、温かい気分になります。

本当に素晴らしい企画をしていただき、幸せな気持ちにさせていただきありがとうございます。

また、ほかの国々にも多くの家族を作りたいと願っております。政府間の外交ももちろん大切なことですが、こうして家族と家族、人と人が深い友情で結ばれていくことこそ、真の国際親善の草の根運動といえるのではないのでしょうか。

ぜひまた、このような企画をし、他の国々とより親しくさせてください。よろしく願いいたします。 謝々

## 真心で接すれば真心で返ってくる

伊丹 節子  
(福島県)

須賀川地方ユネスコ協会からJICAが招へい事業として受け入れた中国青年教員のホームステイの話があった時は、一瞬とまどいを感じました。それは言葉の問題でした。今までホームステイは何回か経験していましたが、中国の人は初めてでし

た。それでも何事も体験と思い、お引き受けいたしました。

幸い須賀川ユネスコ協会では、ホームステイ家族を対象に中央公民館で中国語講座を3回、中国の事情・中国の家庭生活の習慣など1回、計4回の研修会を開催しましたのでとても勉強になりました。

私の家には江蘇省から来た唐建中さんと遼寧省から来た陳智さんの2人が滞在しました。中国を代表して選ばれたエリートの方だと直感いたしました。共に35歳の好青年です。

食事はなんでも食べていただいたのですが、やはり言葉は考えていたより大変で、お互いに辞書を見ながらお話をしますが、思っていることが半分も通じず、最初のうちはたいへんご迷惑をおかけしたと思います。辞書には中国語を日本のカタカナで訳していますが、日本の活字では表現できない発音であることが分かりました。それからは漢字で書くようにしました。

私の家庭は、私たち夫婦と息子夫婦、それに女の孫2人の6人家族ですが、小学1年と幼稚園の孫は中国の2人から離れないくらいになってしまいました。真心で接すれば真心で返ってくる。このことに国境はございません。わずか3日間のふれあいでしたけれど、すっかり家族の中にとけこんでいき、お別れする時などこんなに悲しいことだとは思いませんでした。お別れする時、おふたりの目に光るものがあったからです。この素晴らしい体験は永久に私の心の奥に残るものと思います。



# 新中国実務者招へい計画



# 1. 新中国実務者招へい計画

## (1) 事業の概要

### 1) 事業の目的

「新中国実務者招へい計画」は、日本と中国の実務者の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### 2) 実施方法

#### (a) 招へい人数

平成7年度は、100名を同時期に受け入れる。

#### (b) 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

##### (i) 産業基盤整備 25名

環境保全事業に従事している者、産業基盤整備に関連した人材

##### (ii) 経済開発 25名

経済・貿易実務等を通じ、国内経済改革または対外開放政策に従事している者

(経済関係者、貿易実務者等)

##### (iii) 地域振興 25名

地域開発の策定および実施、ならびに地域産業の育成等を通じ、地域振興に従事している者

(地方政府関係者、郷鎮企業関係者等)

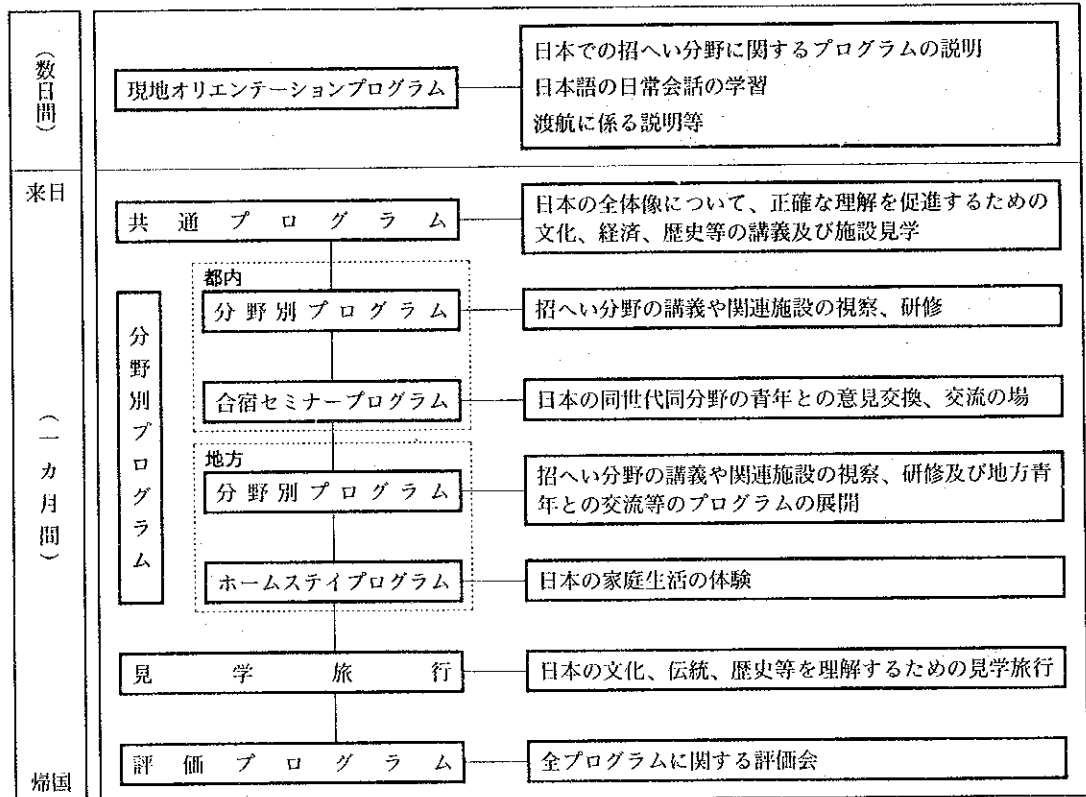
##### (iv) 人材育成 25名

教育関係業務に従事している者(教育行政関係者、教員等)

#### (c) 招へい期間および時期

11月15日～12月14日までの1カ月間

### 3) プログラム概要



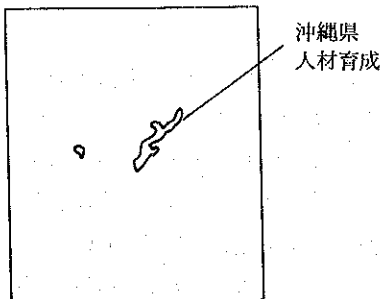
### (2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施県
産業基盤整備	25	日本ユース・ホステル協会	鳥取
経済開発	24	勤労厚生協会	愛媛
地域振興	25	世界青少年交流協会	香川
人材育成	25	青少年育成国民会議	沖縄

\* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

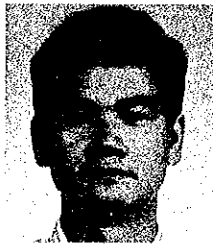


## 分野別プログラム実施県



## 2. 招へい青年の印象

### 日本を訪れて



謝 俊  
(産業基盤整備グループ)

今回は私にとって初めての日本訪問でしたが、1カ月の学習・見学・交流を通じて日本のことをたくさん知り、中国国内や本の上では学べないような知識を身につけ、視野を広げ、日本の友達をたくさん作ることができました。

先進国として、日本の経済建設は短期間で全世界が驚嘆するような成果を収めました。日本の国土は狭く、資源に乏しく、人口が密集し、第2次世界大戦では壊滅的な打撃を受けましたが、戦後は短い間に急速な発展を遂げ、世界の経済大国となりました。そのなかのさまざまな経験は中国の参考になるものです。中国の近代化スピードアップのために、私たちは日本の経済建設の中の成功例を学ばなければなりません。東京の膨大な電車・地下鉄網、全国を走る新幹線や高速道路、高度に発達した工業、特に日本人の「やる気」は私にとって印象深いものでした。交流・見学・訪問では、

どこでも温かく迎えていただき、日本の青年や日本人の中国青年、中国人への友情を感じさせられました。

合宿セミナーとホームステイは、素晴らしいプログラムでした。私にとっては日本の青年や日本の一般市民の日常生活を理解する、得難いチャンスでした。プログラムのなかで、私も日本の青年やホストファミリーと深い友情を結ぶことができました。きっと一生忘れることなく、国に帰ってからも幾度となくこの佳きひとときを思い起こすことでしょう。

また、広島平和記念公園と原爆資料館を見学して、日本人も戦争の被害者であり、日本の軍国主義から起こった侵略戦争が、被侵略国の国民に大きな被害をもたらしただけでなく、日本国民にも大きな被害をもたらしたことを知りました。広島の人々の平和を愛し、平和を守り、平和事業を進める精神はひととき印象深いものでした。21世紀を担う中国の青年として、私たちは日本の青年たちとともに今日の日中友好関係を大切に、この友情を絶えず深め、育て、アジアひいては世界の平和と発展に役立てていかなければならないと思います。

中国と日本は海を隔てた隣国で、二つの国は長い間交流を続けてきました。いろいろな面で、中国と日本は同じ、あるいは似ているところがあり、両国の協力には素晴らしい条件が整っています。中国と日本が仲良く共存していくことは、両国の発展にとって共に大切で、両国国民の根元的な利益にも合致し、両国の青年、国民の共通の願いで

もあることを、歴史や事実が物語っています。

中国青年の訪日団の一員として、私はさまざまな形で、中国と日本の青年の交流や中国と日本の友情のため、できる限り貢献していきたいと思えます。

## 訪日の思い出

朱 強  
(経済開発グループ)



光陰矢の如し。初めて知る青い山と緑の水の映える、高層ビルと木造の家がまじり合っている列島の風景。日本の友人たちの熱く、周到で、そしてこまやかな心配りのある深い友情を感じながら、またたく間に訪日の日程を終了しようとしています。振り返ってみると本当に感慨深いものがあります。

まず、一人の中国青年として私が深く感じたのは、日中両国の違いは大きいということでした。両国の文化はすべて古代中国に源を発しており、そして相当長い時期、日本は中国からその文化を学んできたのでした。しかし、近代に至って中国は遅れた国になってしまいました。日本は明治維新を経て国の発展のために、思想と人材の基礎を築きました。第2次大戦以降にはまた、奇跡とも言える速い速度で発展を遂げたのです。至るところ、インフラは整備され、国民の素質は高く、協調性のある都市と地方との関係、高い社会文化、特に企業の厳格な管理、従業員の仕事に対する真面目な態度、品質の高い製品と高い労働生産効率、これらのことすべてが、私に深い印象を残しまし

た。その日本に比べて、中国はさまざまな原因で多くの発展の機会を失ってきました。伝統文化と現代文明を結びつける方面においては日本は私たちが学び、参考に値する多くのものを持っていると思いました。

次に、日本の人々は中国人に対して厚い友情を持っていました。私たちのために働いてくれた日本側スタッフの皆さんはもちろん、ボランティアで交流に参加した日本青年、そしてホームステイのホストの方々も皆、私たちにとても温かく接してくださいました。日本側スタッフでは、プログラムコーディネーターの湊谷さん、愛媛県の藤井さんを始めとする皆さんが毎日朝早くから夜遅くまで、私たちのために周到な仕事をしてくださいました。私のホームステイのホストである西原進平さんは本当にお忙しいところを一日余りの時間をさいて、私に見学、懇談会、大きなパーティー等を手配してくださいました。体験的日本語学習の時には、家が仙台市にある青田さんが、わざわざ東京まで出てきて私たちと一緒に行動してください、夜になってから、何時間もかけて電車に乗って帰って行かれました。こういったすべてのことは、本当に私を感動させました。

三つ目に印象深かったことは、日本の政策は現在変化をしているところであり、バブル経済の崩壊と円高の影響が、日本製品のコストを上昇させ、国際競争力を低下させ、貿易立国の基本国策は現在厳しい挑戦を受けているということです。これに対し日本は国を挙げてはっきりした認識を持ち、有効たり得る措置を取っています。たとえば愛媛県のFAZ構想は、規模の大きい、遠い将来を見通したもので、私は深い啓発をうけました。明らかに、これらの変化は日中両国間の協力関係に、さらに広い領域を与え、さらに多くのチャンスを提供するものです。

1カ月の訪問で、私が出たものは非常に多いものでした。友人を作り、友情を深め、視野を広め、

日本との差をはっきりと認識することができました。私は日本政府及びJICAが中国青年にこのような機会を与えてくださったことに心より感謝申し上げます、友好的な日本の友人の皆様にもまた、心よりの感謝を申し上げます。

同時に、一人の青年企業家として、私はプレッシャーと重い責任を深く感じています。自分の一生の力を企業の発展のために注ぎ、何十年の時間を使っても、仲間たちと協力して、住友、東芝あるいは日産のような大企業を造り上げたいと思います。国の進歩と発展のために、日中友好の促進のために自分の最大の努力をしていきたいと思えます。

## 交流を通じて友情を深めた私たち

楊 昕  
(地域振興グループ)



中国と日本は海を隔てた隣国であり、両国のあいだの友情は、互いに学び合い、互いに発展していくなかで育ってきたものだ。戦後の日本経済はかくも迅速に発展してきたが、日本各地はいかに自己の発展の方向を見いだしてきたのか、いかに地域経済の発展を促してきたのか。物質文明が非常に発達した日本で、現代の青年たちは経済の発展と社会の進歩のなかにどのように身を置いてきたのか。日本の友達と互いに交流したい、という願いを胸に私は日本へやってきたのである。

日本の友達のこまやかな心づかい、温かい気持ち、誠実さに触れるにつれ、外国にいるという感覚がだんだんと薄れていった。中国の青年たちの

友好的でおおらかで誠実な気持ちが互いの心の距離をさらに近づけていった。それはまるで皆がもっと交流をし、理解を深め、友情を強いものにし、両国の友情を永遠に伝えていこうという共通の願いをもっているかのようなようだった。まさにこの願いと率直さのために両国の青年がともに歩めるのだ。この1カ月間、感じたことはいろいろある。印象深かったのは日本の経済の発展であり、また最も忘れられないのは日本の友達との腹をわっての心からの交流だ。

合宿セミナーでは、私たちは中国の各地から集まっており、日本側の青年も日本のあちこちからかけつけていた。それぞれ専門も違えば、仕事も違い、言葉も通じなかった。それでも互いに交流をしたいという共通の願いを妨げるものは何もなかった。皆心のとびらを開き、個人のこと、家庭のことから社会にいたるまで、子供から老人、都市から農村政府から企業まで、経済、文化、教育など話題にこと欠かず、互いに相手の国、友達の考えていることを心から知りたいと思い、友好的でなごやかな雰囲気にあふれていた。夜のレクリエーションで交流はさらに深まり、かたちにこだわることなく、心ゆくまで自分の気持ちを伝え合い、青年たちは本当に生き生きとしていた。こうした交流は必要であるばかりでなく、非常に有益なものだ。日本の人々の職業意識の強さやまじめで細やかな仕事ぶりには私たちが学ぶべきところが多い。

香川県の人々は純朴で客をもてなす温かい気持ちにあふれ、研修先でも、見学先でも、心揺さぶられるものがあった。ホームステイはもともと私たちが最も心待ちにし、また最も心配していたものだった。しかし、ホストファミリーは親切で優しく、こんな心配は必要のないものだった。私たちは漢字や英語で交流したが、彼女はたどたどしい中国語で気持ちを伝えようとし、私も習ったばかりの日本語で気持ちを伝えたかった。私たちは

姉と妹のようにとても仲良くなり、私の咳ひとつ、ちょっとした疲れの表情にも彼女は気をつかい、私は私で彼女についてのほんの細かなことにも心の底から注意をはらった。二人とも2日間という時間はあまりに短いと思い、一緒にいる時間がもっともっと長かったらいいのにと願った。私は日本の家庭の生活を体験しただけでなく、今の日本の社会と日本の女性を知ることができた。彼女たちはもう古い観念にとらわれることなく、大きな理想をもち、たえず自己を成長させ、発展させているのだ。

日本の人との交流のなかで、彼らが中国のことをあまりにも知らないこと、今の中国が改革開放を行って経済を発展させていることを知らないことを肌で感じた。中国と日本の青年同士の交流がさらに深まり、理解が一層深まってきたるべき21世紀には両国の友情の花がさらに美しく咲くよう心から願っている。

## 忘れ難い沖縄

鄒虹

(人材育成グループ)



1カ月間の友好訪問のうち、3分の1の時間は沖縄で過ごしましたが、私たちが当初いちばん心配していたホームステイが、あのような感動的な物語になるとは、つゆ思いもしませんでした。

私たちの家のご主人の小橋川氏は公務員で、奥さんは法律事務所に秘書として勤めています。私たちが海や生け花展に連れて行ってくれましたが、知り合いに出会うたびに私たちを紹介してくれま

した。2日目に小橋川氏はマラソンに参加することになっていたもので、朝早くから起き出して、応援に行きました。夕ご飯は私たちが中国料理を披露して、集まってくれたご主人の友人たちにも食べてもらったところ、大好評でした。ご主人は肉饅を8個も食べてくれましたが、残った肉饅はお土産として、友人たちが家へ持ち帰りました。夕食後、ご主人はマラソンの賞状と賞品を披露して、今回は中国の友人が応援してくれたので、今までで最も良い成績が取れたと言ってくれました。

沖縄に別れを告げようとしていた頃、上山中学校で、私たちは学校の教師や生徒、ホストファミリーとともに、野外料理パーティーを開きました。全員が手をつなぎあって、沖縄の郷土の歌を歌いました。最後には、野外料理パーティーに参加した日本の友人たちが、両側に人垣を成して通路を作り、私たちを歓送してくれました。年配の方、若い方、知り合いの者、そうでない者が皆、私たちと一人一人握手をして別れを告げましたが、涙を誘う音楽を聞きながら、感動的な光景を眼にしつつ、その場に居合わせた全員が涙をこぼしました。

私たちがホテルに着いた途端、ホストファミリーの多くがホテルに駆けつけて、ある者は団員を2日間のうちに回れなかった場所に連れて行ったり、ある家庭は防寒服を届けて来たり、ある者はホテルのロビーに座って語り尽くせなかった話題を続けたりしていました。日本の友人たちの少なからぬ人は、現在の中国に対する理解度が低く、偏見を持っていた者さえいましたが、このたびのホームステイ活動を通じ、中国を理解することができましたので、機会があればぜひ中国へ行ってみたいとのことでした。

沖縄を離れる当日、雨が上がって晴天になり、七色の虹が空の真ん中に跨がっていましたが、ホストファミリーの多くが朝早くから空港まで見送りに来てくれました。団長は皆に泣かないように

指示していましたが、結局皆は耐え切れずに泣いていました。飛行機は唸りを立てて青空に飛び立

ち、沖縄はしだいに私たちから離れていきました。さようなら、沖縄。忘れ難し、沖縄。

## 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

### 初めての国際交流

関根 利昌  
(会社員)

今回初めて合宿セミナーに参加しました。

これまで私は、毎年1500人もの青年が日本に訪れる青年招へい事業が行われていることも知りませんでした。合宿セミナーに参加する前は、中国語は話せないし、私の仕事と産業基盤整備は直接関係があるわけでもないのに、正直なところ不安でした。合宿セミナーの事前研修で、私と同じ心境の人が多いことが分かり、気分的にはとても楽になりました。

分科会は、通訳を含めて12人のグループでしたが、日本人だけのディスカッションとは異なり、通訳が入る時間がとても短く感じました。振り返ると、彼らに尋ねたいことがたくさんあることに気がつきました。

私たちのグループでは環境問題、特にリサイクルについて話し合いました。日本の家庭製品は、修理するよりも新品を買ったほうが安くなるケースもあるので、使い捨てが多く見られますが、中国では、修理をして、大切に使用します。また、利用価値がなくなったものに関しては、使用可能な部品もあるので、引き取るリサイクルが成立しています。本当のゴミ（リサイクル不可）は、ほん

の少ししか出ないとのことでした。ゴミを捨てる場所がない日本とはギャップがありすぎるように思えました。中国では、経済発展を第一に考えているようですが、環境問題を無視した経済発展は日中両方で望んでいないことが認識できました。

交流のタバヤスポーツ交流では、私が想像していたよりも盛り上がり、普通の生活では体験できないことが今回の合宿セミナーで体験できて、とても有意義でした。私は中国青年と食住を共にして国際交流に深く関心を持ちました。ぜひとも21世紀に向けて今回の経験を生かして国際交流ができればと思っています。

### 理解し合える関係

下平 靖雄  
(会社員)

私は11月23日より、中国の経済開発グループの青年とともに、富士山麓、河口湖での合宿セミナーに参加させていただきました。日本人参加者全員の気持ちを代弁すれば、中国は“近くて遠い国”であり、中国の人とはほとんど話をしたことがないという不安感を抱いての参加だったと思います。河口湖へ向かうバスの中でも、やや緊張の面持ちだったことをよく覚えております。しかし、そのような不安が全くの杞憂だったと分かるまでに時間はかかりませんでした。中国側青年たちは、各職場において若くして重要なポストに就いておられる方ばかりで、どんな人たちかと思っていまし



たが、そこはやはり同世代、お互いに同じ希望を持ち、同じ悩みを抱えているということがすぐに分かり、すっかり打ち解けた雰囲気になりました。

今回の交流を通じて確信を持って言えることは、日中両国は、国情・文化の違いを超えて、分かり合えるのだということです。もちろん、日中双方で、意見の食い違いの出るトピックス（女性の社会進出等）は多々ありましたが、それらの違いが何に由来し、今後どうすべきなのか、といったことで、互いの考えを理解し合える機会が持てたことは、大きな収穫だったと思います。

討論以外にも、2日目の夜は、日本側の用意した二人羽織等のゲームで大いに盛り上がり、たいへん楽しい思い出となりました。所期の目的どおり、多くの中国人の友人を得ることができ、今後中国を訪れる際は懐かしい顔に会うのが楽しみです。

折しも今、NHKでは日中合作ドラマ「大地の子」が放映され、好評と聞きます。私たち日本人にとってやはり中国は、関係の深い「お隣りさん」であることを再認識させられます。心が通い合った今回の経験を、今後の日中の友情に役立てていきたいと思っています。

## 中国・体感

林 健太郎  
(公務員)

このたびの合宿セミナーに参加させていただき、限られた時間ではありましたが同世代の中国青年と話す機会を持ちました。その経験を経て得ました私の感想を、いささか散文的ではありますが以下に記します。

まず最初に、当セミナーのテーマでありました地域振興につきましては、中国青年の皆さんも、私の話すような稚拙な経済討論から得るべきものがあつたのか疑問であります。それ以前に、中国の国土の広さ、多様な民族性、その各々が持つプライドの高さは、日本で言う地域振興とは異なった展開をもつものであろうと感じました。

日本では「良いこと」「悪いこと」の判断基準が概ね均一であるため、中央機関がある程度の国土計画を示すことで地域開発が行われ、日本全土の底上げがなされています。

一方中国では（あくまでも分科会で得た私の感想ですが）、地域それぞれにその民族が各々の考え方を持っているようで、討論会の最中にも意見の相違による激論が多々行われていました。その激論は（中国語が解せないだけに）かなり激しいものと感じましたが、終わり方がまた鮮やかなもの





でした。けっしてどちらかが折れたわけではなく、喧嘩別れしたわけではなく、「大陸的」というのか、互いの地域性・民族性を認め合った解決でした。故に、中国での地域開発は、各々の民族性が反映されたものであり、それぞれの地域が独自の開発により向上することで、中国全土の開発につながるのではないのでしょうか。

また、このセミナーでは「友好」も大きなテーマでした。当該テーマについては、まさしく教わ

ることばかりでした。

中国青年の言う「友好」は、「中国に来る際は、必ず家に寄ってください」的な家族的なものでありましたが、恥ずかしながら私の「友好」は、いささか「コネクション」的なものでありました。

以上の反省を踏まえ、また、今回の出会いを大切にするためにも、ぜひ中国語をマスターし、将来の中国訪問を目指しております。

## 4. ホストファミリーの思い出

### 初めてのホームステイ受け入れ

下田 照子  
(鳥取県)

中国からの女性、張大富さんを受け入れ、家族はもちろん、地域の人も一緒に世界へ目を向ける機会をいただきました。

説明会でいろいろなことを聞いた時は、不安を感じてしまいましたが、大富さんとお会いした時その不安がなくなりました。

「晚上好！」ときこちなく言う私に、「コンパ  
ンワ！」とにっこりされ、握手をした手に親近感を持ち、日常生活そのまま一緒に入り込んでいただけると思い、気持ちが楽になりました。

到着の夜は、早速地域の女性が集まっている会に参加していただき、交流をしました。

手芸品に挑戦した後、お菓子の食べ方、抹茶の飲み方を聞きながら体験をしていただきましたが、抹茶のたて方に興味を持たれ、自分で何回もやってみるといふ態度には感心してしまいました。

特に日本の着物に興味があり、私のもので少し袖が合わなかったのですが、着ていただいて記念写真を撮りました。

洋服の時は髪もおさげで、化粧もしていない感じでしたが、着物を着るとそれに合わせて髪をアップにし、口紅をさし……とびっくりしてしま

ました。

毎晩訪れる近所の人たちと夜遅くまで語り合い、中国のことを知りたがる人々にいちいち答えてくださいました。

言葉は、英語が話せる人だったので娘が通訳をしてくれて助かりましたが、漢字で書いて通じた時はとてもうれしくて、やっと要領が分かりかけたところでお別れとなってしまいました。これまでまったく縁のなかった中国が、本当に近いものとなりました。よい機会をいただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

### 山村からの国際交流

稲本 康子  
(愛媛県)

わが家は、愛媛県松山市から車で1時間30分の距離にある小さな山あいの村にあります。築70年以上たった母屋には、一年に何人かの外国の人が訪れます。

今では、忘れられてしまった日本の暮らし方が、わが家にはまだあります。かまどでご飯を炊いたり、薪のお風呂があったりと、日本人でも郷愁を感じる風景です。外国の人にはとても珍しがられます。一緒に薪を燃やしたり、山を見ながらのパーベキュー等々、山村の気分を十分に味わってもらいたいと思っています。

今回のゲストは、中国からの美しい女性（国家経済貿易委員会に勤務）でした。

いちばん喜んでいただいたことは、着物を着せてあげたことです。一目見るなり、着物が似合う人だと思ったので、聞いてみると、中学生の時、日本人を奥様にもった先生から、あなたは着物が似合うと言われたので、それ以来、ずっと着物を着てみたいと思っていたということでした。それはそれは大喜びで、床の間の前で、障子の前で、玄関で、松の木の前でと、写真を撮りまくりました。着物をずっと着ていたいようでしたので、普段の着物に着替えしました。夕食の手伝いや、食事でも着物でし、寝るまで着ていました。

公務員の夫とは、日中公務員談話に花が咲きました。また息子の小学校へ行き、子供たちとゲームや焼き芋を楽しんできました。

ホームステイの受け入れをすることによって、子供たちは世界は広いし、いろいろな人たちが住んでいること、小さな山の中でも直接世界につながっていて、いつでもコミュニケーションできることを学びました。地球規模で考える芽が確実に育っているようです。わが家の国際化の小さな一歩です。

## 陳さんの思い出

今村 加奈三  
(香川県)

今年のお正月、わが家に新しい中国の友人から手紙が届きました。同封された写真には、彼の奥さんと6歳の娘さん。彼女たちともずっと前から知り合いだったような気になりました。

彼の名は陳さん。2泊3日で、わが家には私たちが結婚して初めてのお客様です。お迎えするといっても、「うさぎ小屋」等と世に名立たる、日本のアパートでのこと、彼には狭くて不便なことも多かったろうと、申し訳なく思っています。

ちょうど、主人も私も陳さんと同じ年頃なので、

ともだちのような感覚でした。1日目は、彼の職業に関係があると思い、主人の職場である茶工場の見学をしてから、田んぼへ行き、レタスの苗植えも体験してもらいました。それから、温泉や観光地巡りもしましたが、何といても、彼がいちばん興味を示し喜んでくれたのは、実家の父母を交えての大麻雀大会でした。ルールがいろいろ違っても、お互い筆談とボディランゲージで理解し、楽しいひとときを過ごすことができました。やはり麻雀は中国が本場だなと痛感しました。

主人も私も、海外派遣で中国へ行き、民泊でお世話になったことがあり、その恩返しにと、独身時代にお互い一度ずつ民泊の受け入れをしています。しかし、二人で外国のお客様をお迎えするのは初めてのことで戸惑いがありましたが、陳さんの笑顔と明るい性格に助けられ、貴重な経験をすることができました。

今回の民泊受け入れでの反省点は、何といても私たちの語学不足に尽きます。気を使ってくださって英語で話してくれましたが、英語も中国語も勉強不足で陳さんには申し訳なく思っています。「中国語で手紙をください」という陳さんとの約束は、近いうちに必ず果たしたいと思います。

## ホームステイを体験して

池原 信子  
(沖縄県)

上山中学校の総務部の方から中国の青年のホームステイをと依頼されたホームステイ初体験の私たち家族は、好奇心と不安とで緊張した気持ちでお世話を引き受けさせていただきました。初体験の私にとってまずは言葉の心配、食事のこと、寝床のことなどいろいろ考えました。主人の両親に相談したところ、相手の国の生活に合わすのではなく自分たちの生活のリズムに合わせなさいとアド



バイスを得、あわてず、気張らずに、戈さん、馮さんを私の家庭に迎えることができました。

最初は言葉の通じないいらだちもありましたが、時間がたつにしたがって、お互いに目で言葉を交わしたり、どうにか話が通じ、筆談ではなんとノート一冊もの会話をしました。主人や主人の両親の協力もあり、1日目は両親の家で戈さん、馮さんの歓迎会を楽しみました。特に、昔、中国に行ったことのある主人の父は喜んで、中国語を思い出し懸命に話しかけておりました。戈さんたちは、父がどうして中国に行ったかはあえて聞かなかった、とそっと教えてくれましたが、その気くばり

にも感心しました。

2日目は両親とともに沖縄の観光地を見学しました。2日間の短い日程では回りきれない所がいっぱいありましたが、沖縄で迎えた戈さんの誕生会、わが家の子犬の誕生と、思い出がつきません。

最後の日の昼食は、私たちが希望して、小渡さんの家族も交えて、手作りの中国料理をごちそうになりました。特に水ぎょうざを手ぎわよく作るのにはびっくりさせられました。

ボウリング大会、上山中学校での野外料理、おわかれ会と会を交わすごとに友好の絆が強くなっていきました。

沖縄を後にする日の朝、空港に向かう途中、きれいな七色の虹が二連に雨があがりの空に跨っているのを見て戈さんが、「中国と沖縄とのかけ橋」だと言った言葉に涙を誘われました。戈さん、馮さんが子供たちに「ぜひ中国へ」とおっしゃってください、機会があれば子供たちを中国に行かせ、より深い交流ができればと思っています。

県民会議の皆様、ありがとうございました。このような素敵なお機会をつくってくれたことを家族や両親共に感謝しております。

# 実績資料

## 1. 実績一覧

### (1)「新日中青年の友情計画」実績一覧

#### ●平成3年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
総団	*4	日本国際協力センター	—	—	—
青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	鳥取	中国	島根県ユネスコ連絡協議会
経済青年	25	日本経済青年協議会	福岡	九州	福岡県海外青年招聘事業実行委員会
公務員	23	国際交流サービス協会	沖縄	沖縄	(独)沖縄県青少年育成県民会議
教員	25	青年海外協力協会	青森	東北	青森県国際交流協会

\*うち2名団員兼任

#### ●平成4年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユース・ホステル協会	愛知	東海	愛知ユース・ホステル協会
経済青年	25	日本経済青年協議会	大阪	関西	インターコミュニカ・大阪
公務員	24	国際交流サービス協会	沖縄	沖縄	(独)沖縄県青少年育成県民会議
教員	25	青年海外協力協会	兵庫	関西	兵庫県世界青年友の会

#### ●平成5年度(98名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	新潟	関東	新潟ユネスコ協会
経済青年	24	日本経済青年協議会	鹿児島	九州	(独)鹿児島県国際交流協会
公務員	25	国際交流サービス協会	三重	東海	三重県連合青年団
教員	24	青年海外協力協会	岡山	中国	津山とアジアを結ぶ会

#### ●平成6年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者	25	青少年育成国民会議	岩手	東北	(独)岩手県国際交流協会
勤労青年	25	日本経済青年協議会	鹿児島	九州	(独)鹿児島県国際交流協会
公務員	25	日本ユース・ホステル協会	宮城	東北	宮城県ユース・ホステル協会
教員	25	青年海外協力協会	石川	北陸	(独)石川県国際交流協会

#### ●平成7年度(98名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者	25	日本青年団協議会	岡山	中国	(独)岡山県青年館
勤労青年	25	日本経済青年協議会	三重	東海	三重県連合青年団
公務員	23	国際交流サービス協会	長崎	九州	(独)長崎県国際交流協会
教員	25	日本ユネスコ協会連盟	福島	東北	福島ユネスコ協会

## (2)「新中国実務者招へい計画」実績一覧

## ●平成3年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施 府県	JICA支部	地方協力団体
地域産業技術	25	中央青少年団体連絡協議会	岐阜	中部	大垣市国際交流協会
産業基盤整備	25	青少年育成国民会議	島根	中国	島根県国際交流青友会
経済・貿易	25	ユースワーカー能力開発協会	大阪	関西	インターコミュニカ・大阪
文化・教育関係	25	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会

## ●平成4年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施 府県	JICA支部	地方協力団体
産業基盤整備	25	日本国際協力センター	福岡	九州	福岡県海外青少年招聘事業実行委員会
経済開発	25	ユースワーカー能力開発協会	埼玉	関東	上尾市国際交流フォーラム
地域振興	25	青少年育成国民会議	和歌山	関西	和歌山県青少年育成県民会議
文化・教育	25	世界青少年交流協会	岡山	中国	岡山県世界青年友の会

## ●平成5年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施 府県	JICA支部	地方協力団体
産業基盤整備	25	日本国際協力センター	福井	北陸	福井県国際交流協会
経済開発	25	ユースワーカー能力開発協会	山梨	関東	青少年育成山梨県民会議
地域振興	24	青少年育成国民会議	沖縄	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議
文化・教育	25	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会

## ●平成6年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施 府県	JICA支部	地方協力団体
産業基盤整備	25	日本国際協力センター	北海道	北海道	苫小牧国際交流センター
経済開発	25	国際交流サービス協会	長崎	九州	長崎県世界青年友の会
内陸地域振興	25	日本友愛青年協会	島根	中国	友愛青年連盟島根県支部連合会
文化・人材育成	25	世界青少年交流協会	岐阜	東海	(財)大垣国際交流協会

## ●平成7年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施 府県	JICA支部	地方協力団体
産業基盤整備	25	日本ユース・ホステル協会	鳥取	中国	とっとり青友会
経済開発	24	勤労厚生協会	愛媛	四国	(財)愛媛県国際交流協会
地域振興	25	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会
人材育成	25	青少年育成国民会議	沖縄	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議

## 2. 平成7年度青年招へい実績一覧

受入時期 陣・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
5月10日～ 6月8日 1陣 94人	インドネシア	教育	22	青年海外協力協会	山形	山形県青年海外協力協会
	インドネシア	社会開発	25	勤労厚生協会	徳島	徳島県青年連合会
	フィリピン	教育	22	青少年育成国民会議	山梨	(社)青少年育成山梨県民会議
	フィリピン	社会開発	25	日本経済青年協議会	広島	(財)広島市国際交流協会
5月24日～ 6月22日 2陣 94人	シンガポール	教育	22	国際交流サービス協会	茨城	茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ
	シンガポール	社会開発	25	日本友愛青年協会	大阪	友愛青年連盟大阪支部連合会
	タイ	教育	22	世界青少年交流協会	静岡	沼津国際交流協会
	タイ	社会開発	25	日本ユース・ホステル協会	京都	(財)京都ユース・ホステル協会
6月7日～ 7月6日 3陣 94人	マレーシア	経済経営	25	世界青少年交流協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会
	マレーシア	中小企業	25	青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
	フィリピン	経済A	20	ユースワーカー能力開発協会	広島	庄原市国際交流実行委員会
	フィリピン	経済B	24	日本国際協力センター	石川	小松市国際交流協会
6月21日～ 7月20日 4陣 110人	インドネシア	経済A	20	国際交流サービス協会	島根	島根県国際交流青友会
	インドネシア	経済B	24	勤労厚生協会	群馬	アセアン青年招へい事業群馬市実行委員会
	シンガポール	経済A1	20	日本国際生活体験協会	宮城	(財)宮城県国際交流協会
	シンガポール	経済A2	24	日本ユース・ホステル協会	福岡	福岡県ユース・ホステル協会
	シンガポール	経済B	22	日本経済青年協議会	愛知	(財)豊橋市国際交流協会
6月28日～ 7月27日 5陣 93人	バングラデシュ	公務員 (社会福祉関係)	20	青年海外協力協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
	ブータン・モルディブ	教員	10	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	(財)沖縄県国際交流財団
	インド	青年指導者 (社会開発)	23	日本国際協力センター	愛知	(財)愛知県国際交流協会
	ネパール	教員	10	日本青年団協議会	徳島	徳島市国際交流協会
	パキスタン	公務員 (農業関係)	20	世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
	スリ・ランカ	教員	10	青少年育成国民会議	北海道	滝川市国際交流協会
7月5日～ 8月3日 6陣 98人	韓国	青年指導者・ 公務員	25	国際交流サービス協会	新潟	(財)新潟県国際交流協会
	韓国	勤労青年 (技術系)	23	勤労厚生協会	埼玉	上尾市国際交流推進委員会
	韓国	教員 (養護学校)	25	日本ユース・ホステル協会	福井	(財)福井県国際交流協会
	韓国	学生 (理科系)	25	世界青少年交流協会	秋田	秋田世界青年友の会
8月23日～ 9月21日 7陣 94人	フィリピン	農業	25	全国農村青少年教育振興会	大分	(財)大分県海外協会
	タイ	農業	25	日本青年団協議会	青森	青森県青年海外協力協会
	タイ	経済A	20	日本経済青年協議会	秋田	(財)秋田県国際交流協会
	タイ	経済B	24	勤労厚生協会	愛知	ジャパンヤングサークル東海支部
8月30日～ 9月28日 8陣 78人	太平洋混成	公務員	22	青年海外協力協会	岐阜	飛騨高山国際協会
	太平洋混成	教員	14	日本ユース・ホステル協会	石川	石川県ユース・ホステル協会
	バブア・ニューギニア	公務員	10	世界青少年交流協会	富山	富山県世界青年友の会
	バブア・ニューギニア	教員	20	日本国際協力センター	滋賀	滋賀県青年団体連合会
	フィジー	公務員	12	青少年育成国民会議	和歌山	(社)和歌山県青少年育成協会
9月13日～ 10月12日 9陣 105人	インドネシア	農業	25	全国農村青少年教育振興会	鹿児島	(財)鹿児島県国際交流協会
	マレーシア	農業開発	16	青年海外協力協会	栃木	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
	マレーシア	教育	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
	マレーシア	科学技術	25	豊川市国際交流協会	愛知	(財)豊川市国際交流協会
	ブルネイ	社会開発	14	日本国際生活体験協会	岡山	日本国際生活体験協会岡山地区委員会



受入時期 陣・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
9月27日～ 10月26日 10陣 113人	ASEAN混成	環境保全	30	日本経済青年協議会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	ASEAN混成	社会福祉	30	世界青少年交流協会	富山	(財)とやま国際センター
	ASEAN混成	保健医療	30	国際看護交流協会	山梨	(財)国際看護交流協会
	ASEAN混成	報道	23	日本国際協力センター	徳島	徳島新聞・放送実行委員会
10月11日～ 11月9日 11陣 97人	アフリカ					
	英語圏	女性教員1	22	大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	仏語圏	女性教員2	25	大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	英語圏	経済開発公務員	24	国際交流サービス協会	山口	山口県青年団体連絡協議会
	仏語圏	経済開発公務員	12	青年海外協力協会	岡山	津山とアジアを結ぶ会
10月18日～ 11月16日 12陣 98人	英語圏	経済開発公務員	14	世界青少年交流協会	岡山	岡山県世界青年友の会
	베트남	公務員	25	日本国際協力センター	北海道	とまこまい国際交流センター
	베트남	経済	25	勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
	베트남	農業	24	全国農村青少年教育振興会	徳島	徳島県国際農業協議会
10月25日～ 11月23日 13陣 88人	베트남	教育	24	ユースワーカー能力開発協会	石川	(財)石川県国際交流協会
	ASEAN混成	教育1	18	日本国際生活体験協会	北海道	(財)札幌国際プラザ
	ASEAN混成	教育2	18	日本友愛青年協会	熊本	熊本県青年海外協力協会
	ASEAN混成	経済1	17	日本国際協力センター	千葉	(財)千葉県国際交流協会
	ASEAN混成	経済2	17	日本ユース・ホステル協会	静岡	(財)静岡県国際交流協会
11月8日～ 12月7日 14陣 98人	ASEAN混成	経済3	18	青少年育成国民会議	福岡	(財)九州・山口経済連合会
	中国	青年指導者	25	日本青年団協議会	岡山	(財)岡山県青年館
	中国	勤労青年	25	日本経済青年協議会	三重	三重県連合青年団
	中国	公務員	23	国際交流サービス協会	長崎	(財)長崎県国際交流協会
11月15日～ 12月14日 15陣 99人	中国	教員	25	日本ユネスコ協会連盟	福島	福島ユネスコ協会
	中国	産業基盤整備	25	日本ユース・ホステル協会	鳥取	とっとり青友会
	中国	経済開発	24	勤労厚生協会	愛媛	(財)愛媛県国際交流協会
	中国	地域振興	25	世界青少年交流協会	香川	香川県海外派遣友の会
1月17日～ 2月15日 16陣 80人	中国	人材育成	25	青少年育成国民会議	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議
	カンボディア	教育	30	青少年育成国民会議	大阪	大阪市青少年国際交流協議会
	ラオス	教育	20	国際交流サービス協会	高知	(財)高知県国際交流協会
	ミャンマー	教育	20	世界青少年交流協会	兵庫	(財)兵庫県青少年本部
合計	71グループ 1,533人	ASEAN6カ国(792)、太平洋13カ国・地域(78)、ミャンマー(20)、中国(197)、韓国(98)、南西アジア諸国7カ国(93)、モンゴル(10)、アフリカ諸国41カ国1国際機関(97)、カンボディア(30)、ラオス(20)、ベトナム(98)計74カ国・地域、1国際機関				

### 3. 中国窓口機関(現地プログラム実施機関)

(1) 「新日中青年の友情計画」

中華全国青年連合会  
北京市前門東大街10号

(2) 「新中国実務者招へい計画」

中華人民共和國国家經濟貿易委員会  
北京市宣武門西大街26号

### 4. 青年招へい事業実施協力団体等連絡先

(社)青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development-NAYD-)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター  
TEL 03(3460)4151 FAX 03(3460)1603

(社)世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association-WYVEA-)

〒111 台東区浅草橋1-7-2 岩崎ビル  
TEL 03(5820)0791 FAX 03(5820)0796

(社)日本国際生活体験協会 (Japanese Association of the Experiment in International Living-EIL-)

〒102 千代田区麴町4-5 橘ビル6階  
TEL 03(3261)3451 FAX 03(3261)9148

(社)全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association)

〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階  
TEL 03(3235)7461 FAX 03(3235)7462

(社)日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan-JEC-)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター  
TEL 03(3469)2381 FAX 03(3481)5726

(社)勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター  
TEL 03(3469)6421 FAX 03(3469)6422

(社)ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth-DAY-)

〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階  
TEL 03(3508)2048 FAX 03(3503)2535

(社)国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association-IHCSA-)

〒100 千代田区霞が関2-2-1 外務省第一別館

TEL 03(3580)1630 FAX 03(3580)7451

(社)青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association-JOCA-)

〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階

TEL 03(3446)3651 FAX 03(3446)3652

日本青年団協議会 (Japan Seinendan Council)

〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階

TEL 03(3475)2491 FAX 03(3475)0668

(社)日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan)

〒150 渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階

TEL 03(5424)1121 FAX 03(5424)1126

(財)日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.)

〒101 千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館2階

TEL 03(3288)1417 FAX 03(3288)1248

(財)日本友愛青年協会 (Yuai Youth Association)

〒112 文京区小石川4-21-2 ハイッ小石川201号

TEL 03(5684)3187~8 FAX 03(5684)3186

(財)日本国際協力センター (Japan International Cooperation Center-JICE-)

〒163-04 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル内 私書箱300号 (9階)

TEL 03(5322)2561 FAX 03(5322)2570

早稲田大学国際交流センター (Waseda University International Center)

〒169-50 新宿区戸塚町1-104

TEL 03(3203)7747 FAX 03(3202)8583

(財)日本武道館 (Nippon Budokan)

〒102 千代田区北の丸公園2-3

TEL 03(3216)5137 FAX 03(3216)5117

